

ご自由にお持ち帰りください。

生涯学習

とっとり

鳥取県教育委員会発行
2016.5 皐月

164

鳥取県内の生涯学習講座が満載！

ページ

1 特集

移住定住、鳥取は最高！

鳥取ふるさとUI（友愛）会

3 食物アレルギー児を持つ親の会 ナチュラル

4 とっとり県民カレッジ連携
生涯学習講座情報（5・6月）

26 連携講座 おすすめピックアップ

27 鳥取県立生涯学習センター

29 未来をひらく鳥取学

とっとり県民カレッジで熱心に学ばれた皆さんをご紹介します

31 とっとり県民カレッジで学んでみませんか？



『切り絵シリーズ』東郷湖羽合臨海公園のアヤメとハナショウブ（湯梨浜町）

色とりどりのハナショウブやアヤメが乱舞する東郷湖羽合臨海公園は春真っ盛り。様々な花が出番を待っています。

絵・文：紙原 四郎氏

移住定住、鳥取は最高！

～ 仲間と共に楽しむ鳥取暮らし ～

鳥取ふるさとUI（友愛）会



ぶらり自転車道くだり

若桜から鳥取へ

自然を満喫しながらママチャリで軽快に走行

鳥取県東部にUIJターンした人たちのネットワークの会である鳥取ふるさとUI（友愛）会。「楽しく、有意義で、快適な鳥取生活」を目指して活動中。その活動が鳥取県の地方創生につながっていきます。

自由で多彩な活動を展開

豊かな自然と新鮮な食材があり、ゆったりとした時間の流れの中で「心の贅沢」を感じることができる鳥取県。そのような鳥取県に魅力を感じ、転職や定年退職をきっかけとして移住者が増加中。しかし、長年住み慣れた地を後にして新天地で生活するにはいろいろな悩みや苦労もあり、新たな暮らしに馴染めるかどうか不安を抱えている人も多いと聞きます。

そのような移住者の同好会として発足したのが、鳥取ふるさとUI（友愛）会（以下「UI会」）。鳥取の地で「楽しく、有意義で、快適な生活をする」ことを目的として、平成21年1月にUターンされた現会長の福山さんが発起人となり、鳥取県東部地域（1市4町）の移住定住者を対象として結成されました。現在、会員は約50世帯、約100人。全国各地から移住した、老若男女、多様多彩な人たちが集まりいろいろな活動を行っています。

UI会の活動は、総会・納涼祭・忘年会などの恒例行事、歓迎会・ランチ会などの会員交流会、砂丘一斉清掃・上地棚田水路保全作業などの地域活動への参加、会員の得意分野を生かしたサークル活動、その他主催・共催事業などたくさんあります。このような活動を行うことで、会員に交流の場を提供し、情報交換を行っています。その結果、仲間もできてスムーズに鳥取に馴染むことができ、安心して生活が送れるようになります。「鳥取暮らしの中で日々感じるのは、人とのつながりの大切さ」だと言われる福山さん。UI会のネットワークが移住者の心の支えになっているのは確かなようです。

UI会が結成されて今年で7年目。活動の幅が一層広がり、昨年3月には、ママチャリサークルの企画で、「ぶらり自転車道くだり」という一般公募イベントを開催しました。約50

人が若桜駅から鳥取駅までの35kmを走行。移住者と地元の人との交流が芽生えたひと時となりました。今後も多彩なイベント企画や地域活性化のための活動を予定されています。

鳥取の良いところや気になるところを第三者の視点で捉えることができるUIJターン者。これまで県外で培ってこられた豊富な経験やアイデアをもとに、鳥取県に新風を巻き起こし、活力ある地域づくりを共に進めていただける貴重な人材。そのような人たちが結成されたUI会の今後に期待が集まっています。

会員の声

山登り、温泉、スキー、野菜づくりなど楽しんでいます。鳥取暮らしを楽しむコツやとれたて野菜もおすそ分け！UI会で情報交換と物々交換もしています。（Mさん）

人口の少ない鳥取では、やってみたいことに待ち時間なしでトライできます。鳥取の自然との豊かな関わりの中で未知への挑戦ができて楽しいです。（Yさん）



移住してすぐは、地名も言葉もわからず、とまどうことが多くありましたが、UI会で得られる情報がずいぶん助けになりました。遠慮なく話ができる出会いもあって、鳥取での生活の支えとなっています。（Nさん）

故郷鳥取に帰ってきて、半年で設立！ 田舎と都会の両方を知っているのは価値がある。

私は、もともとは鳥取市出身です。大阪で45年間自営業をしていましたが、平成20年8月、62歳の時に鳥取に帰ってきました。その頃、「友愛」という言葉を聞いてUターン・Iターンのことがビビッときましたね。「あ、こんな会をつくったらおもしろいな」と、帰る前から考えていました。



鳥取ふるさとU（友愛）会
代表 ふくやま ひろまさ 福山 裕正 さん

鳥取に帰ってきて、家探しのために市役所の中山間地域振興課（現、地域振興課）に相談に行き、今住んでいる用瀬の家を紹介してもらっている時、担当者にU会の構想について話すと、「福山さん、そういうの作ってよ！」という話になってね。Uターン・Iターンの人が集まり、宣伝もして、平成21年にはU会を立ちあげました。

18歳まで育った鳥取の風景は、45年経っても子どものころを思い出すくらい、山も川も畑も昔の面影がしっかりと残っていました。私は、ふるさと鳥取を愛しています。鳥取の自然のすばらしさや田舎で心豊かに暮らせることをどんどん県外の人に伝えていったら、移住者ももっと増えるんじゃないかと思っています。都会と田舎の両方を知っていて、その違いを語ることでできるU会は、大きな存在価値があるのではないかと思います。

私は、U会の活動の他に、地元産の農産物を関西で販売したり、関西の方を鳥取市に招いて古民家宿泊、農業体験、観光をしてもらうなど、鳥取と関西をつなぐための「鳥取おこしの会」や「鳥取あきんど塾」というビジネスサークルを立ち上げ活動しています。今後も人と人をつなぎ、鳥取の地域づくりやU会の活動へと結びつけていきたいですね。

鳥取で新規就農 よそ者の視点で鳥取のためにできること

私は、高知県出身で進学と就職で35年余り大阪で過ごしました。もともと退職後は田舎で自給自足をしたいという夢がありました。鳥取には、若い時から氷ノ山や大山に何度も登ったことがあり、友人もいるし馴染みがありましたね。山の幸や海の幸もおいしいし、食べ物にもひかれて早期退職を契機に鳥取に来ました。



鳥取ふるさとU（友愛）会
事務局 なかや ふみお 中屋 史男 さん

平成20年、関金にある鳥取県立農業大学の研修課程に社会人対象の長期コースが新設されたと聞いて、果樹科で1年間学びました。その後、鳥取県農業農村担い手育成機構の紹介で、八頭町徳丸にある「はっとうフルーツ観光園」の空き梨園に新規就農し、今年で7年目になります。

鳥取は、ものづくりが割と簡単にできるんですね。畑は貸してもらえるし作業をする時間もある。都会暮らしには現金がいりますが、鳥取で必要なものは、現金でなくて元気だなと。お金は使うとなくなりますが、元気は使うほど増えるんですよ。鳥取には元気が出せる場所がたくさんあり、鳥取に来てよかったと思っています。

U会については、新聞で知りました。こんな会ができたんだと思い連絡をすると、「今度、国府の上地で棚田保全のための水路清掃をするイベントがあるから」と声をかけてもらい、そこで初めて福山さんと出会いました。それから企画部や事務局としてU会に関わっています。移住者の多くは新しい場所での新しい暮らしで悩みを抱えています。移住の機運が高まっている今、移住経験者や地域を巻き込んだ協力体制が必要で、移住した人が鳥取で心豊かに生活できるように、しっかりとサポートしていきたいと思っています。

そして、今後はもっとよそ者の視点から情報発信したり、鳥取のためにできることをやっていきたいですね。



ワカメ刈り

2メートルものワカメがぶらさがったロープをクレーン車でつり上げて岸壁にあげ、ハサミで刈りとりします。カットワカメしか知らない会員はびっくり！



会員宅の畑で恒例の春の行事

手作りドラム缶の炉を囲んでバーベキュー。摘みたての山菜でんぶが絶品！



鳥取駅前サンロード
「とっとりいなばのお袋市」

自分たちでつくった農産物や手工芸品を売ります。おこずかい程度のプチ商いですが、移住者の仕事を作る意味でU会の大事な活動です。

「鳥取市移住・交流情報ガーデン」が誕生

移住希望者に寄り添った、きめ細かな移住定住の支援のために鳥取市が設置した、「鳥取市移住・交流情報ガーデン」が、今年の1月10日に鳥取市若桜街道沿いにオープン。3名の移住定住コンシェルジュが常駐し、市民生活紹介、現地案内、各種情報提供など移住者の増加に向けた取り組みと移住された方の鳥取暮らしを支えています。移住定住の「気軽な相談窓口」「交流の場所」として利用でき、U会も活動の拠点として活用されているそうです。今後、益々U会の活動が深まっていくことでしょう。

仲間募集中！

会の趣旨に賛同する方なら
だれでも入会が可能
年会費 3,000円 / 1家族

問合せ先

U会事務局 090-8169-6118 (中屋)
Eメール hanakuma@jewel.ocn.ne.jp

食物アレルギー児を持つ親の会 ナチュラル

市民活動

(米子市)

～食物アレルギーっ子だって美味しく、楽しく、いろんな体験を！～



寄稿：食物アレルギー児を持つ親の会ナチュラル

代表 福田 美穂 さん

食物アレルギー自助サークル設立

食物アレルギー児を持つ親の会ナチュラル（以下「ナチュラル」）は、県西部を中心に活動する食物アレルギー児を持つ家族による自助サークルです。ナチュラルができる前は県内にアレルギーサークルや相談窓口などがなかったため、親は一人で悩みを抱えるしかありませんでした。他県の患者会に参加したことがきっかけで、自分の住んでいるまちにも患者会が必要と強く感じ、平成23年9月に会を設立し、現在43家族が在籍しています。

ナチュラルは、悩みを気軽に話し合える場

日頃の思いや悩みを気軽に話し合える場を提供することを目的に、毎月1回定例会を開催しています。我が子のアレルギーについての悩みを身近なママ友などに話してもなかなか共感してもらえないこともあります。当事者同士であれば気持ちを理解しやすいので、話を聞いてもらうだけでも心が軽くなります。定例会以外でも会員専用のSNSを活用し、リアルタイムでやり取りができるようにしています。

子ども同士の絆がめばえた子ども会活動

アレルギーを気にすることなくみんなと同じ活動がしたいという要望があり、平成23年から子ども会活動を始めました。それまでは、食事に不安があり、クリスマス会やキャンプなどに参加できなかったのが、ナチュラルの子ども会活動で初めてみんなと同じケーキを食べることができたという子どもも多く、活動の幅が広がりました。子どもたちも苦しんでいるのは自分だけではないということを理解し、今では子ども同士の絆もめばえ、異年齢で仲良く遊べる理想的な子ども会になっています。

親も子どもともに学習をしています

会を立ち上げて驚いたことは、最も身近で子どもを守る立場である保護者が、正しい知識を有していないことでした。

食物アレルギーの分野は近年大きく研究が進んでいますが、それとともにいろいろな情報が氾濫しています。多くの情報の中でどれが正しいかを判断するには知識が必要です。ナチュラルでは、専門家を招いて保護者を対象とした学習会や調理実習を開催してきました。これにより、食物アレルギーに対する認識が深まり、生活の質が向上し、以前より楽しく暮らすことができるようになりました。

また、調布で起きた学校給食の事故を教訓に、子どもたちにも教育が必要と感じ、子どもを対象とした学習会等も行っています。今では自ら食品表示を確認したり、調理方法を身に付けようと積極的に台所でお手伝いをするようになりました。

最近、災害時のアレルギー対応に不安があり、学習を始めました。将来的には啓発活動につなげたいと考えています。

前向きにアレルギーと向き合うことが可能に

嬉しいことに今では、学校給食のアレルギー対応が改善し、地域のイベントでもアレルギーに対する配慮があることが多くなり、とても住みやすいまちになりました。

ナチュラルを立ち上げて一番良かったことは、支え合う仲間ができたこと。おかげで精神的な負担が軽くなり、前向きにアレルギーと向き合えるようになりました。

同じ悩みを持つ者同士が集い、気軽に話し合える場を提供するという基本のスタイルを継続しつつ、これからは、新たなニーズにも応えられるよう努力していきたいです。

保護者を対象とした学習会のようす



月に1回の定例会は、気軽にお茶を飲みながらの会です！

子どもたち対象の調理実習

●連絡先 070-5056-4707（事務局 前田）

※参加希望の方は電話かメールで問合せいただくかブログで確認をお願いします。

じげプロナチュラル

検索